

第6学年 国語科学習指導案

平成29年11月21日(金) 第5校時
授業者 松井 勝彦

1. 単元名

筆者のものの見方をとらえ、
自分の考えをまとめよう。

2. 教材名 『鳥獣戯画』を読む 「この絵、わたしはこう見る」

3. 指導の立場

『鳥獣戯画』を読むは、アニメーション映画の演出家である高畑勲さんが、「漫画の祖」といわれる国宝の絵巻物『鳥獣戯画』の一場面の絵を取り上げて解説をした説明的な文章である。そして、「筆者のものの見方を捉え、自分の考えをまとめる」ことをねらいとしている。また、筆者のものの見方とその対象が明確で、読み手が納得したり自分の見方と比較したりできる教材である。本単元では「鳥獣戯画」のもつ魅力を「絵」「絵巻物」「歴史的背景」を切り口に、絵と文章を照らし合わせて、筆者のものの見方や考え方を読み取らせ、それを名画の解説文を書かせるという活用場面に生かすことができる。これらのことから、次に学習する書くこと領域の教材「この絵、わたしはこう見る」と複合させた単元を構成する。「ものの見方を広げる」という単元名の通りに、子どもが高畑さんの見方と自分の見方を比べて、自分の見方を広げたり、高畑さんの考えに近づいたりできるようにしたい。この解説文を読むことで、自分だけでは気付かない鳥獣戯画のすばらしさを理解できるはずである。

児童はこれまでに、5年「生きものは円柱形」、6年「時計の時間と心の時間」で、筆者の考えや主張を読み取り、それに対する自分の考えをまとめる学習をしている。しかし、実体験や科学的な事実を根拠とした主張とは違い、「ものの見方」は個人の感性によるところが大きく、根拠も具体と抽象が入り混じってくる。そこで筆者のものの見方を学ぶためには事実と感想、意見などの関係を押さえることが重要になる。

この点で、児童の事実と考えの区別や関係性を捉える力が弱いと言える。事実を確実に捉えていないことで考えがあいまいになることがある。また、この事実からこう考えるという根拠を明確にできない

面が見られる。

本単元では「解説文を書く」という言語活動を見通し、自分のものの見方で絵を読む力と、読み取ったことを「評価を表す言葉」を用いて表す力を身に付けさせたいと考える。絵のよさをどう読み取ったらいのかを知るために、「『鳥獣戯画』を読む」の高畑勲さんの「何を」「どのように」伝えているかについて単元を貫く言語活動を設定することで、『鳥獣戯画』を読む」を読む目的をはっきりさせ、読んだことを書くことにつなげる。特に高畑さんの「何を」「どのように」ものの見方を伝えているか捉えるために、高畑さんが「鳥獣戯画」の「何を取り上げ」「どこに目を向け」「どのような言葉で評価しているか」に着目することを大切にする。

4. 研究内容の視点から

○研究内容1に関わって

全13時間での単元指導計画となった。第一次では、単元を貫く課題を知らせ、文章構成を考え、学習計画を立てる。第二次では、第三次の言語活動をするために、筆者が「何を取り上げ」「どこに目を向け」「どのような言葉で評価しているか」を読み取っていく。そして、第三次では、それまでの学習を活かして、アンリ＝ルソーの絵について解説文を書く活動を位置づけた。

○研究内容2に関わって

(1) — ② 教具の工夫

学習の足跡を掲示する。『鳥獣戯画』を読むで見つけた工夫を想起させることで、表現の工夫に活用することができるようにする。またワークシートを活用する。選んだ工夫を書き込んだり、書く量の目安がもてるようにしたりするためである。

(2) — ① 目的性や必然性のある交流

文章を書く時間は2時間で設定している。中間交流を入れることで、自信をもったり、教えてもらったり、参考にしたりして修正することができるようにする。グループ内で交換して読み合い、アドバイスをする。この際一人ずつ発表すると時間がかかるので、交換したワークシートに書き込むようにする。

5 単元指導計画

●単元の指導目標

- ◎絵と文章との関係を押さえて筆者の考え方を捉え、自分の考えを明確にしながらか読むことができる。(読ウ)
- ◎表現の効果を確かめたり工夫したりして書くことができる。(書オ)
- 文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げて深めることができる。(読オ)
- 絵から感じたことの中から書くことを決め、全体を見通して事柄を整理することができる。(書ア)
- 事実と感想、意見などを区別するとともに、必要に応じて絵の様子を簡単に書いたり、詳しく書いたりすることができる。(書ウ)

単元を貫く課題

作品に対するものの見方を広げ、絵から読み取ったことや感じとったことを伝える解説文を書こう。

相手：クラスの仲間

目的：作品に対する自分の考えを伝える場面で、効果的な表現方法を身につけるために

次	時	ねらい	学習活動	筆者の説明の工夫	評価規準 (評価方法)
第一次	1	絵を初めて見た自分の考え方と『鳥獣戯画』を読むを比べて読み、筆者のものの見方に対して関心をもつことができる。	1. 最初の絵を見て、自分なりに読み取ったことや感じたことを書く。 2. 本文を読み、自分との見方の違いに気付く。 3. 本時の課題の確認をする。 単元の目標を確かめ、学習の計画を立てよう。 4. 全文を読み、学習計画を立てる。	①題名	【関・意・度】 「ものの見方を広げよう」という単元の目標に沿いながら、関心を高め、単元の学習の見通しをもっている。 (発言・ノート)
	2	文章の全体の構成をつかみ、大まかな内容について確認する。	1. 本時の課題の確認をする。 文章構成を確認しよう。 2. 大きく「絵」と「絵巻物」について書かれていることを確認。	③段落の中心となる言葉・文 ⑥「はじめ」「中」「終わり」	【読むこと】 全体の文章をとらえ、段落ごとの関係を確認している。 (発言・ノート)
第二次	3	事実と感想、意見などとの関係に着目し、事実としての「絵」のどの部分を取り上げ、「感想・意見」としてどのように評価しているのかを具体的に読み取り、自分の考えをまとめることができる。	1. 文章には「絵」と「絵巻物」についての説明と、筆者の評価が書かれていたことを確認する。 2. 本時の課題の確認をする。 「絵」について、筆者は何をどのように評価しているか読み取ろう。 3. 音読をする。(①～③段落) 4. 「絵」について、「どの部分の」「何に」着目し「どのように」説明したり、評価したりしているのかを絵と文章を照らし合わせて読む。 5. 全体交流をし、「絵」について、事実と感想、意見の叙述の仕方について確かめる。	・書き出し 「はっけよい、のこった。」「どうだい。」 ②終わりの言い方 「…返し技。」「…野ウサギ。」(体言止め) 「…してごらん。」 「…わかるね。」 ③段落の中心となる言葉・文	【読むこと】 事実と感想、意見などとの関係を押さえて「絵」について読み、自分の考えをまとめている。 (発言・ノート)
	4・5	事実と感想、意見などとの関係に着目し、事実としての「絵巻物」のどの部分を取り上げ、「感想・意見」としてどのように評価しているのかを具体的に読み取り、自分の考えをまとめることができる。	1. 「絵」について、事実と感想、意見がどのように叙述されていたのかを思い出し、前時のふり返しをする。 2. 本時の課題を確認する。 「絵巻物」について、筆者は何をどのように評価しているか読み取ろう。 3. 音読をする。(④～⑦段落) 4. 「絵巻物」について、「どの部分の」「何に」着目し「どのように」説明したり、評価したりしているのかを絵と文章を照らし合わせて読む。 5. 全体交流をし、「絵巻物」について、事実と感想、意見の叙述の仕方について確かめる。	②終わりの言い方 どうだい。 なんだろう。 わかるね。 ちがいない。 ⑨絵と文をつなげる	【読むこと】 事実と感想、意見などとの関係を押さえて「絵巻物」について読み、自分の考えをまとめている。 (発言・ノート)

<p>1 1 (本時)</p> <p>1 2</p>	<p>表現の効果を工夫して、絵についての自分の見方を伝える解説文を書くことができる。(前半)</p>	<p>1. 前時のふり返りをする。 2. 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分の見方を伝えるための効果的な表現の工夫を考えて、解説文を書こう。</p> </div> <p>3. 例文から、表現のよさを読み取り、見通しをもつ。 4. どの表現を取り入れるのかを決め、文章を書く。 5. 書いた文章を読み、推敲する。</p>	<p>②終わりの言い方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見える ・感じる ・表れている ・一ではないだろうか。 ・一にちがいない。 <p>・書き出し</p>	<p>【書くこと】工夫をいれてい ・効果的な文章を書く。 (ノート・発言)</p>
<p>1 3</p>	<p>交流し、感想を伝え合うことで、見方の素晴らしさや表現のよさを認め合うことができる。</p>	<p>1. 書いた解説文を見直す。 2. 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>解説文を交流し、互いによさを伝え合おう。</p> </div> <p>3. ランダムで交流する。 4. 全体で交流する。 5. 学習をふり返り、まとめる。</p>		<p>【話す・聞く】自分の書いた解説文と仲間の書いた解説文を比べて、よさに気付いている。 (ノート)</p>

6. 本時の展開 (11 / 13)

(1) 本時のねらい

表現の効果を工夫して、絵についての自分の見方を伝える解説文を書くことができる。(前半)

(2) 本時の展開

	ねらい	学習活動	教師の指導・援助
つかむ 【3分】	今までの学習をふり返り、本時の課題をつかむことができる。	<p>1. 前時までの学習をふり返り、本時の課題をつかむ。 ◇アンリールソーの絵についての解説文の内容を決めている。本時は実際に文章にしていく。『鳥獣戯画』を読む』では、自分の見方を伝えるために効果的な工夫があったことを思い出す。本時は効果的な表現の工夫をして文章にしていくことを確かめる。</p> <p>2. 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 自分の見方を伝えるための効果的な表現の工夫を考えて、解説文を書こう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 側面掲示や自分のノートを活用して、ふり返る。
さぐる 【30分】	<p>例文の工夫のよさを見つけることができる。</p> <p>自分が使う工夫を決め、文章にすることができる。</p>	<p>3. 例文から、表現のよさを読み取り、見通しをもつ。 書き出しの例 ・「この絵は～を表しているのだと思います。」→最初にずばり書いているのでよく分かる。 ・「とても暑いジャングルの中」→実況中継みたいで、その場にいるような感じになる。 記述の例 ・「よく見てください」→読み手に語りかけるように言って、気を引くようにしている。 ・「おくに目を向けると」→注目してほしいところをはっきりして読み手の目が向くようにしている。 ・「ちがいない」→自分の考えを強く言っている。</p> <p>4. 全体交流 ・個人で読み取ったことを、全体で出し合う。 意見が出た後 『鳥獣戯画』を読む』で見つけた書き出しの工夫や文末の工夫などを想起させる。 他に教科書 p 149 の「見る場所や見る方法を表す表現」「読み取ったことや感じたことを表す表現」も参考にする。</p> <p>5. どの工夫を取り入れるか決める。 書き出しの工夫 ・ずばり考えを書く。 ・実況中継のように書く。 ・ユーモアを入れて書く。 ・その他 記述の工夫 ・読み手に話しかける。 ・読み手に問いかける。 ・読み手に注目させる。 文末の工夫 事例 例え</p> <p>6. 文章に書く。 ・文章構成した付箋を見ながら、文章を書く。 ・書き出しの工夫から始める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 例文が書いてあるプリントに書き込めるようにする。 書いた子から後ろでランダムにペア交流をする。 書き出しの工夫や記述の工夫は見やすくまとめる。 書き出しの工夫が決められない子には、例文をあげて援助していく。
深める 【12分】	書いた文章を交流することで、読み手はどう感じるのかわかったり、友達表現のよさを知ったりして、自分の文章に活用することができる。	<p>7. 中間の交流(グループ交流)をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 交流して、読み手としてのアドバイスをしよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 書き出しが、短い言葉になっていてリズム感がある。 最初に、動物の会話から始まっていて、興味がわく。 実況中継みたいで、その場にいる感じがする。 細かい所に目を向けるようになっていて引き込まれる。 <p>8. 教師から工夫のよさを広げる。 ・最初に、動物の会話から始まっていて、興味がわく。 ・実況中継みたいで、その場にいる感じがする。 ・読み手に語り掛けるような表現がある。 ・『鳥獣戯画』を読む』と同じ文末が使った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> プリントを交換して、見つけた工夫にサイドラインを引き、アドバイスを書く。(よさや改善ポイントなど) <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 評価規準・評価方法 【書くこと】 ・効果的な工夫を入れて文章を書いている。(ノート・発言) </div>

